

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 2 3	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Incidence of alcoholic pancreatitis in Japanese alcoholics: survey of male sobriety association members in Japan. 日本人アルコール依存症患者におけるアルコール性膵炎発症	
執筆者	
Maruyama K, Otsuki M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Pancreas. 2007 Jan;34(1):63-5.	
キーワード	
アルコール依存症、アルコール性膵炎、発症率、断酒会	
要 旨	
<p>目的： 日本人断酒会メンバーを対象にアルコール依存状態を把握する質問表調査を行い、アルコール性膵炎の発症率を検討する。</p> <p>方法： 男性日本人断酒会メンバーを 7876 人対象に質問票 (年齢、飲酒開始年齢、飲酒量、飲酒歴、断酒開始年齢、膵炎の病歴、膵炎の診断時年齢、膵炎の病因等を含む) を配布しアルコール性膵炎の発症率等を検討した。</p> <p>結果： 対象者のうち 4120 人より回答があり、20.8%が膵炎の既往歴があった。全体の 10.1%がアルコール性膵炎と診断されており、0.8%が胆石による膵炎、9.9%が原因不明もしくは不詳による膵炎であった。アルコール性膵炎の 373/418 人および、原因不明及び不詳膵炎 345/718 名より詳細な膵炎の現病歴、多量飲酒の習慣、飲酒量の回答を得た。これらの結果より 718 名はアルコール性膵炎と考えてよい。アルコール依存症における膵炎の発症率は 17.4%であった。膵炎の既往のあるアルコール依存症患者は膵炎の既往のないアルコール依存患者に比較してより若年で飲酒を開始しており (19.1±3.9 vs 19.5±4.6 歳)、又、1 日あたりの飲酒量も著明に多かった (179±130 vs 166±115g)。</p> <p>結論： 今回の検討よりアルコール依存症におけるアルコール性膵炎の発症率は今までの報告よりさらに高い可能性があると考えられた。</p>	